No.10 こどもとともに生い立ちに向き合うⅡ ~ライフストーリーワークに取り組んで~

松本冴加·濱岡亜弥·菅尾明史·中井桂子·緒方優子(児童養護施設 愛染寮)

1. 背景

- ①近年施設に入所するこどもの抱える背景の複雑化←被虐待経験・入所理由や家族関係の複雑さ
- ②こどもの知る権利の保障←2016年6月児童福祉法改正(すべて児童は・・・保障される権利を有する)
 - ライフストーリーワーク(以下、LSW)の取り組み※注

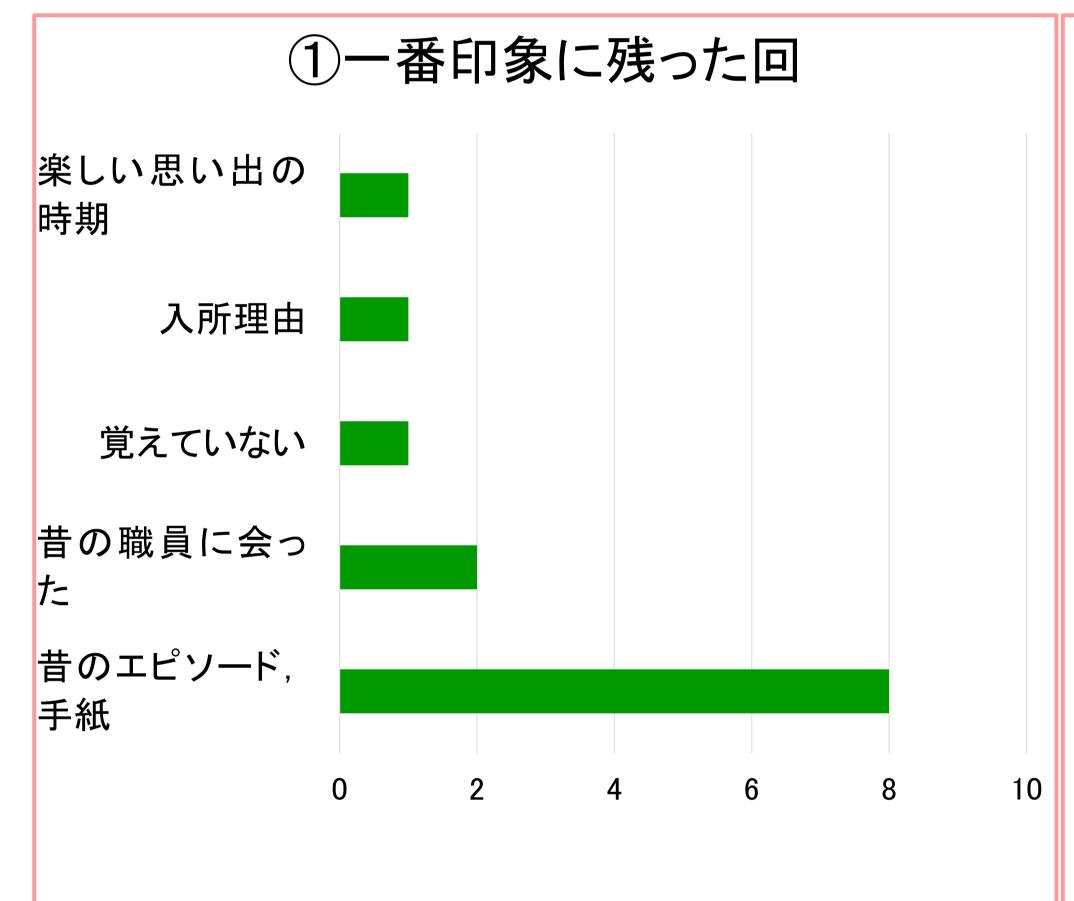
2. 目的

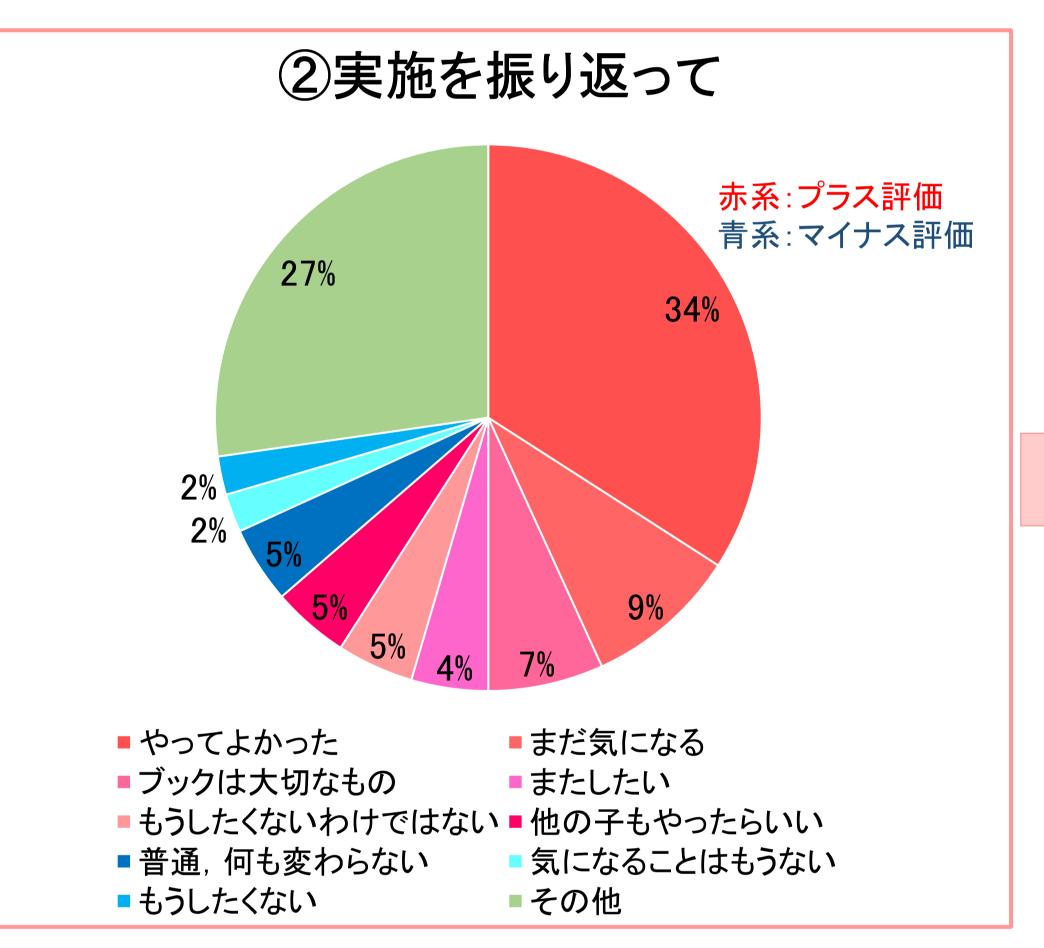
- ●前回発表:LSWに対する職員の意識調査
 - ⇒職員の日常のかかわり方や新しい取り組みへの創出へと 広がりが見られた。
- ●目的:前回の発表からLSWを6年間実施した実際を明らかにする。
- ●方法:自由記述アンケート(実施したこども・実施した職員・付き添い職員)

分析方法KJ法

3. 結果

-こどものアンケート回答より





①の結果

家族の回が印象的と思っていたが、昔のエピソードと答えるこどもが多くいた。

②の結果

- やって良かった→全員
- ・他の子もしたほうが良い、 またしたい→64%
- ・変わらない、もういい →9%

という結果になった。

・職員のアンケート回答より

①職員から見たこどもの変化・・・

- 家族の話をするようになった
- ・親の事情を納得した
- ・こども同士で家族の話をする際に 入れるようになった

②職員側の変化・・・

- こどもの心情をより理解しようと思った
- ・家族の話に踏み込んでも良いと思った

LSWとは・・・

こどもにとって

- ・自分のルーツを知る
- ・自分を大切な存在と思う

職員にとって

- こどものことをより深く知る
- こどもとの関わり方を見直 せる
- ・こどもへ職員の思いを伝え るチャンス

③して良かった点

- こどもがルーツを知れた
- -こどもが自分の大切さを知れた
- ・職員の対応力が付いた
- ・職員がこどもをより理解した

4 考察・まとめ

家族の話をタブー視測

L S W の 実施 こども

職員

・過去の自分の存在を実感 ・家族の話を出来る(自信)

家族の話に踏み込める (ありのままを受け止める)

・こどもへ職員の思いを伝 えるチャンス LSWの実施は

こどもの存在感・人生 をお互いに肯定し よりよく生きる力を 育てる関わりの一つに なっている。 児童養護施 設の社会的 な役割の 一つとして 取り組む

参考文献:才村眞理&大阪ライフストーリーワーク研究会 編著 2016 今から学ぼう!ライフストーリーワーク ※注)LSWとは、こどもが職員と一緒に色々なワークを通して、自分の生い立ちや家族との関係を整理していく取り組み